

平成 2 4 年千葉市教育委員会会議
第 9 回定例会会議録

千葉市教育委員会

平成24年千葉市教育委員会会議第9回定例会会議録

日時 平成24年9月25日（火）

午後1時30分開会

午後2時50分閉会

場所 教 育 委 員 会 室

出席委員	委	員	長	内山 英夫
	委		員	梅谷 忠勇
	委		員	篠原ともえ
	委		員	中野 義澄
	教	育	長	志村 修

出席職員	教	育	次	長	小池よね子	保 健 体 育 課 長	井谷 芳明
	教	育	総 務 部	長	竹川 幸夫	教育センター所長	真田 清貴
	学	校	教 育 部	長	磯野 和美	養護教育センター所長	沼倉 徹
	生	涯	学 習 部	長	原 誠司	生涯学習振興課長	杉戸 利一
	総	務	課	長	初芝 勤	中 央 図 書 館 長	橘 高俊
	企	画	課	長	高須 右一	科学教育推進担当課長	遠藤 悟
	学	校	財 務 課	長	山田 輝夫	生涯学習振興課文化財保護室長	横田 正美
	学	校	施 設 課	長	小野 正嗣	総 務 課 総 括 主 幹	久我 千晶
	学	事	課	長	佐藤 宏喜	学 事 課 調 整 主 幹	行木 浩
	教	職	員 課	長	宇田 英弘	生涯学習振興課主幹	塚越 達雄
	指	導	課 主 幹		山本 幸人		

書 記	総 務 課 長 補 佐	南 久志	総 務 課 主 査 補	諏訪 瑞穂
	総 務 課 委員会係長	土肥 慶典	総 務 課 主 任 主 事	藤井 拓也
	総 務 課 総 務 係 長	渡邊 実		

- 1 開会
内山委員長より開会を宣言
- 2 会議の成立
過半数委員の出席により会議成立
- 3 会議録署名人の指名
内山委員長より中野委員を指名
- 4 会期の決定
平成24年9月25日（1日間）ということで全委員異議なく決定
- 5 議事日程の決定
議事日程を全委員異議なく決定
- 6 会議録の承認
平成24年第7回定例会会議録を全委員異議なく承認
- 7 議事の概要
 - (1) 非公開事項の決定
報告第4号及び議案第37号を非公開審議とする旨決定
 - (2) 報告事項
報告事項(1) 平成24年度千葉市農山村留学推進事業について
指導課主幹より報告があった。
報告事項(2) 平成24年度中学校体育大会の結果について
保健体育課長より報告があった。
報告事項(3) 千葉市科学フェスタ2012について
生涯学習振興課科学教育推進担当課長より報告があった。
報告事項(4) 生涯学習・社会教育施設等における夏季休業中の子どもたちを
対象とした主な事業の実施結果について
生涯学習振興課長、中央図書館長より報告があった。
 - (3) 臨時代理報告
報告第4号 県費負担教職員の処分について
教職員課長より報告があった。
 - (4) 議決事項
議案第36号 千葉市立幸町第一小学校（第四小学校を含む）と第二小学校の
統合について
企画課長より説明があった後、審議。全委員異議なく、原案どおり可決した。
議案第37号 平成24年度千葉市教育功労者表彰について
総務課長より説明があった後、審議。全委員異議なく、原案どおり可決した。

(5) 発言の要旨

報告事項(1) 平成24年度千葉市農山村留学推進事業について

内山委員長 指導課主幹、報告をお願いします。

指導課主幹 「平成24年度千葉市農山村留学推進事業について」、報告します。

まず、千葉県内実施については、9月から12月にかけて小学校93校が実施しておりますが、その中でも本年度初めて5校が県内ホームステイを取り入れ、無事終了しました。

実施状況ですが、南房総市、鴨川市において、5校合わせて、376人の6年生が体験しました。参加校、実施地域等については資料のとおりです。

また、長野県実施についても、長野県内17市町村、20地域において、8月24日（金）から28日（火）までの4泊5日の日程で実施しました。

参加者数は、市内小学校23校の6年生1,181人です。

ホームステイ中の活動は、農作業体験、家事手伝い、受け入れ家庭との交流のほか、星空観察やハイキング、郷土料理づくりや菓子づくり等の食に関する活動、バードコールづくり等の製作活動なども行っています。

実施に当たっては、受け入れ地区の方々の献身的な支援や、引率職員の臨機応変な対応により、工夫を凝らした体験活動が行われ、計画以上に地域の人々とのつながりを図ることができました。

事業の成果ですが、豊かな自然と地域の人々との心温まる交流は、子どもたちにとって貴重な経験となったことや、保護者から離れて生活することで、自分のことは自分ですするという主体性を伸ばす機会になったことなどが挙げられます。

このほかに、県内ホームステイの機会を広げたことで、より多くの子どもたちが体験できる状況が整ってきたことも成果のひとつです。来年度、県内ホームステイ実施を希望する学校数は、今年度の2倍以上となっています。

今後も、ホームステイ等の教育効果の高い活動を積極的に行い、本市児童の体験活動がより充実するよう努めてまいります。

篠原委員 3泊以上親元から離れての経験というのは、すごく子どもたちには必要なものだと思います。ありがとうございます。

今回は、県外実施ということですが、県外で活動した場合と、県内で活動した場合について、違いが出たりすることはあります

か。

また、去年は初任者研修が行われていましたが、今年はどうでしたか。

指導課主幹 県外と県内についてですが、まず、長野県においても農家や普通の家庭などいろいろ家庭があります。また、千葉県内においても、特に南房総市については、浜辺の民宿をお借りしたので、それぞれのホームステイ先によって活動がいろいろ違ってきます。

成果については、これから調査をするところです。

また、初任者ですが、今年は3泊4日で参加しております。

梅谷委員 このような農山村留学は、子どもにとっては、体験が広がるということで、これから先、非常に貴重な体験として、いい思い出として残っていくのだらうと思います。

2点ほどお伺いしたいのですが、1つは、1,500人もの子どもが参加するということで、非常に大変だと思いますが、これまでやってきて、特にこの部分について配慮や工夫をしているということがあれば教えてください。

また、これまで事業を行ってきて、成果もかなり出ていると思いますが、子どもたち自身が留学を終えてどういう感想を持ったか、そして、それらのデータを残されているのか、また、子ども同士が、体験を経てお互いに考え方が変わったというようなことを確認し合えるというか、そういうことも大事だと思いますので、お伺いします。

指導課主幹 まず、それぞれの配慮や工夫についてですが、やはり一番は子どもたちの健康、安全です。それぞれの地域において安全体制を整えるとともに、あらかじめ、病院や診療所などを確認しておくということが一番の配慮ではないかと考えています。

また、工夫という面では、長野県、南房総市、鴨川市それぞれの地域の担当の方や、市役所の方にいろいろ動いていただいているので、そちらとよく連携をしながら行っていきたいと考えています。

次に、子どもたちの意見や、その効果の測定についてですが、毎年、長野県については効果測定を行い、結果を数値に表しているほか、作文等も必ず書かせておりますので、各学校でそれらを掲示したりして交流を図っております。

また、その作文等も指導課で取り寄せ、それを読んで研究をし

ているところです。

中野委員 毎年このような事業を行っている中で、実際に急病で入院しなくてはならないような子どもが出たりすることはないのでしょうか。

指導課主幹 そのような事例も何件かは発生します。そのときには、レンタカーを配備しておりますので、すぐに病院へ連れていったり、救急車を呼んだりということで対応しています。

内山委員長 大変な事業ですが、子どもたちとしては非常にいい機会で、また、印象に残るものだと思いますので、これからもぜひ努力して続けていっていただきたいと思います。

報告事項(2) 平成24年度中学校体育大会の結果について

内山委員長 保健体育課長、報告をお願いします。

保健体育課長 市の大会及び県、関東の大会等については、前回の第8回定例会で報告いたしました。今日は、8月17日から24日の期間、関東地区で開催された全国中学校体育大会における本市代表選手の結果を報告します。

全国中学校体育大会には、団体2種目、個人6種目に32人の選手が出場しました。大会の結果については、資料のとおりです。

第8回定例会でも口頭にて報告させていただきました新体操個人総合、個人種目別リボンで、●●中学校の●●●●さんが昨年度に続きまして2年連続の全国優勝という素晴らしい成績を収めたことを報告させていただきます。

なお、●●選手については、8月29日に、選手、顧問、校長同伴で教育長に優勝の報告をさせていただきました。

内山委員長 全国大会で優勝するというのは大変なことですね。この成績を褒めたいと思います。

報告事項(3) 千葉県科学フェスタ2012について

内山委員長 生涯学習振興課科学教育推進担当課長、報告をお願いします。

科学教育推進担当課長 「千葉県科学フェスタ2012について」、報告します。

千葉県科学都市戦略事業方針に基づき、市民が日常生活の中で科学技術を身近に感じることができる総合的な科学の祭典として、昨年度に引き続き、千葉県科学フェスタ2012メインイベントを10月6日、7日に開催します。

会場となる Qiball（きぼーる）に科学コミュニティを出現させ、子どもたちから高齢の方まで多くの方々が科学技術に親しむ機会を創出します。

主な企画として、来場者の投票により人気のあった出展団体を表彰する「ちばS Cグランプリ」、研究の第一人者による講演会、NECガリレオクラブによる「科学捜査を体験しよう!」、ソニー教育財団による「手づくりCDプレイヤーの作成」のほか、算数、数学を楽しむ会や学理の会などの教育関係団体や、高校生による科学体験ブース、サイエンスショーなどを行います。

なお、メインイベントの期間中は、科学館を無料開放しております。

今年度のフェスタは、さらに幅広い層の参加、参加団体のネットワーク化、情報発信の強化などの課題を改善するため、サテライトイベントを通年開催するとともに、メインイベントの期間を2日間に凝縮し、より身近で興味を引く企画の立案と、内容の充実を図りました。

また、出展団体の公募を拡大し、より多くの団体が主体的に参加できるようにするとともに、参加団体のネットワーク化に向け、情報の共有を行う作業部会の設置や、全ての参加団体が一堂に会する交流会を実施しました。さらに、科学フェスタのホームページを大幅に改修し、身近な公民館や市民団体等が開催する科学イベント、科学講座などの情報発信を充実させました。

なお、メインイベントを開催する10月を「千葉市科学フェスタ月間」と位置づけ、充実した科学技術関連のサテライトイベントを集中的に実施する予定です。

最後になりますが、6日には市長に開幕宣言を、7日には教育長に閉幕宣言を行っていただく予定です。

篠原委員 昨年も見学させていただき、今年もとても楽しみにしています。

昨年感じたことですが、団体名の表示が分かりづらく、どのような団体が関わっているのか分かりませんでした。

今回はさまざまなイベントがあって、グランプリも決めるということなので、団体名が分からないということはないと思いますが、ぜひ見やすいところに名前を掲げていただきたいと思います。よろしくお願いします。

科学教育推進担当課長 そのように対応したいと思います。

内山委員長 先ほど、幅広い市民の方に関心を持っていただくということで、出展団体の公募という報告がありましたが、公募の結果、随分いろいろなところから出てもらっているようです。これからま

た、こういった形で盛り上げてもらえればと思います。よろしく
お願いします。

報告事項(4) 生涯学習・社会教育施設等における夏季休業中の子どもたちを
対象とした主な事業の実施結果について

内山委員長 生涯学習振興課長、中央図書館長、報告をお願いします。

生涯学習振興課長 「生涯学習・社会教育施設等における夏季休業中の子どもた
ちを対象とした主な事業の実施結果について」、報告します。

初めに、公民館で実施した事業について報告します。

いずれの事業についても、普段はなかなかできない体験型の事
業ですが、特に夏休み子ども講座については、宿泊を伴う唯一の
公民館事業として、自主性や協調性、コミュニケーション力を育
てることなどを目的に、学生ボランティアの方々の協力を得なが
ら実施しました。

参加した子どもたちからは、食事づくりなどを通して助け合う
ことの大切さを学んだ、公民館が身近になったなどの感想をいた
だいております。

続いて、加曽利貝塚博物館、郷土博物館の事業についてですが、
こちらについても、土器づくりや火おこし、縄文服の着用といっ
た体験型事業となっており、本市ならではの事業として定着して
います。

現在、本市は、加曽利貝塚の国の特別史跡申請に向け準備を進
めていますが、博物館事業についても、市民の方々に機運を高め
ていただく契機になるようにということで力を入れていきたい
と考えています。

次に、生涯学習センターで実施した事業ですが、本年度の特色
として、親子で参加できる事業という点が挙げられます。

具体的には、パソコン教室、料理教室といった内容になってい
ますが、参加した保護者からは、事業を通して子どもとの触れ合
いができてよかった等の声をいただいております。

続いて、科学館の事業についてですが、科学館は科学都市千葉
推進の拠点施設であり、参加、体験型を特徴とする施設であるこ
とから、今年度も夏休みの自由研究支援や、ロボットづくり、実
験講座など多様な事業を実施し、参加者からは科学のおもしろさ
に気づいた、来年度もぜひ参加したいという感想をいただきました。
来年度も、引き続き事業の充実に努めてまいります。

中央図書館長 続いて、図書館における夏休み中の子どもたちを対象とする

行事の結果を報告します。

まず、図書館体験では、中央図書館の親子図書館体験ツアーを初め、地区図書館で実施した子ども一日図書館員やオリジナル豆本づくりを開催し、参加者総数189人と盛況でした。

参加者からは、普段は入れない中央図書館の自動出納書庫を見てびっくりしたとか、地区図書館では、カウンターの仕事が楽しかったのもっと体験したかったという感想をいただきました。

次に、夏のお楽しみおはなし会は、参加者総数640人で、こちらも大盛況となりました。

参加者からは、高校生のお姉さんが絵本を読んでくれて嬉しかったとか、落語を初めて聞いて楽しかったという感想をいただいています。また、読み聞かせを行った高校生からは、子どもの反応を直に感じる事ができてよかったという感想もありました。

続いて、科学工作遊びは、地区図書館3館、分館1館で開催し、参加者は256人でした。千葉市科学館や東京ガス株式会社の協力を得て実施しましたが、参加者からは、ミニ知識講座でガスのことも知ることができたとの感想をいただいています。

最後に、地区図書館3館で開催した映画会では、参加者総数369人で、保護者の方からは、子どもが小さくて映画館に行くことは難しいため、図書館で企画してくれると助かるという意見をいただいております。

今後の課題としては、子どものみの参加イベントの場合、熱中症対策として、水筒持参の周知や緊急連絡先の確認などの改善策、それから夏季休暇に入ってしまう1週間というのは、各学校で補習等がある場合が多いので、開催時期を検討すること、また、土日に縛られず平日のイベント実施を検討することなどが挙げられています。

今回の行事は概ね好評をいただきましたが、今後は、より一層、図書館を身近に感じていただけるよう、新たな企画にも挑戦していきたいと考えています。

篠原委員 本当に、いつもなかなかできない事業をしていただきありがとうございます。

7月の定例会の際にもお話しましたが、各施設に作品を飾ったり、その作品を写真に撮って展示したりといったことは行われたのでしょうか。

生涯学習振興課長 生涯学習センターについては、1階のロビーに作品を展示さ

せていただきました。公民館の手づくりカメラなどについても、作りっぱなしではなく、実際に動作の確認なども行っています。

篠原委員 ありがとうございます。やはり作品を飾ってもらうということが、子どもたちにとっても励みになりますし、今後のやる気にもつながっていくと思いますので、ぜひ子どもたちの作品を大事にしていきたいと思います。

志村教育長 1点よろしいでしょうか。

博物館や科学館、図書館などは、職員や所員が講師を務めたり、企画を行ったりすることができる施設だと思いますが、公民館や生涯学習センターというのは、施設を提供しているだけといったケースが多いと思います。

例えば、小中台公民館で行われた「体験しよう！－162℃の不思議な世界」のような企画は、恐らく外部の方が協力してくれたのではないかと思います、そのあたりについて教えてください。

生涯学習振興課長 今、お話のあった小中台公民館の事業については、主催事業として東京ガスに協力していただきながら取り組んでいるものです。また、星久喜公民館で行われた「おとまりIN星久喜」についても主催事業であり、公民館の職員と地域の方々が連携しながら取り組んでいます。

また、生涯学習センターの「親子パソコン教室」は、昨年度までは委託で行っていましたが、今年度からは、まなびサポーターという、生涯学習センターのボランティアの方に講師をしていただき、取り組んだものとなっています。

志村教育長 来年から、このような報告をいただく際は、今のように協力いただいた方などが分かるようにしてもらえると、市民の皆さんの広がりが1つの事業を支えていることや、子どもたちの活動を支えているということが分かると思いますので、大変だと思いますけど、よろしくお願いします。

篠原委員 まなびサポーターというのは、どういう方たちなのでしょうか。

生涯学習振興課長 まなびサポーターというのは、ボランティア養成の講座を修了された生涯学習センターの施設ボランティアの方たちで、さまざまな講座等の支援等をしていただいています。

報告第4号 県費負担教職員の処分について

委員長 教職員課長、報告をお願いします。

教職員課長 「県費負担教職員の処分について」ですが、本来、教職員の処分については、千葉市教育委員会組織規則第8条第4号の規定に基づき、議案として審議いただく案件ですが、教育委員会会議の開催を待つことは、9月3日から始まる中学校の学習に大きな影響があることから、同規則第9条の規定に基づき、臨時代理により処理を行いましたので報告します。

被処分者は千葉市立●●中学校教師、●●●●●●歳です。

処分内容は懲戒免職、処分年月日は平成24年8月31日です。

[illegible]

このような行為は、学校教育に対する市民の信頼を損ね、その職の信頼を著しく傷つけるもので、教育公務員として誠にふさわしくないものです。

よって、地方公務員法第 33 条に定める信用失墜行為の禁止に違反し、同法第 29 条第 1 項第 1 号及び第 3 号の懲戒事由に該当するものと認め、処分したものです。

また、同校の校長については、休暇中の出来事ではありますが、管理監督が不十分であったとして、厳重注意としました。

教育委員会では、改めて公務員としての自覚を促すため、8月17日、学校教育部長より市内の全教頭に対し、事件の概要と再発防止に向けた指導を行うとともに「学校職員の服務管理の徹底について」の文書を学校長に発しました。

また、夏休み明けとなった9月3日、各学校の朝の打ち合わせ等において、学校長が直接全教職員に対し、二度と千葉市でこのような不祥事が起きないように指導しました。

なお、当該校においては、８月３１日１８時より臨時保護者説明会を開き、今回起きた事件に対しての謝罪及び学校におけるこれからの対応等について、学校長より説明を行い、保護者のご理解を得たところです。

議案第 36 号 千葉市立幸町第一小学校（第四小学校を含む）と第二小学校の統合について

内山委員長 企画課長、説明をお願いします。

企画課長 「千葉市立幸町第一小学校（第四小学校を含む）と第二小学校の統合について」、説明します。

学校適正配置については、平成19年10月策定の千葉市学校適正配置実施方針に基づき話し合いを進めてきましたが、このたび、幸町地区において統合の合意がなされ、過日、教育長に要望書が提出されたところです。

具体的な要望事項について説明します。

まず、統合校の場所を現在の幸町第四小学校の位置とすること、平成26年4月に新設校として開校することが要望されています。

この要望書の内容に、統合後、将来にわたって学校規模が適正であること、通学距離、安全性に問題がないこと、地域コミュニティに配慮し、バランスのとれた学校配置であること、教育環境を早期に改善できること、これらを重要な観点として要望書を評価した結果、いずれも適切と認められるので、この内容で議決を求めるものです。

この統合により、バランスよく学校が配置されることになり、地域活動の拠点、防災上の拠点としても機能するものと考えています。

また、跡施設となる現第一小学校、第二小学校の活用については、地元代表協議会において今後取りまとめられる要望を踏まえた上で、市全体としての有効活用を検討していきます。

なお、幸町第一中学校と第二中学校の統合については、引き続き協議を継続していきます。統合後の学校規模ですが、平成26年度から30年度までの児童生徒数推計によると、12学級以上の適正規模校となります。

最後に、新設校開校準備ですが、学校長、PTA、教育委員会事務局で組織する統合準備会を設置し、開校に向けた諸準備を進めるとともに、新設校の大規模改修を行っていきます。

志村教育長 参考資料の地図を使って、もう少し具体的に説明をお願いします。

企画課長 参考資料をご覧ください。右上に学校位置図がございます。

左から、幸町第一小学校、中央に第四小学校、その隣に第二小学校があり、今回、一小と四小と二小の3つの小学校について、第四小学校の位置に統合することが要望として出ております。

なお、右側の三小については、中央区にあるマンション等から

の児童が通学しており、適正規模となっていることから、今回の話し合いの対象からは外れています。

また、中学校については、一中と二中が配置をされていますが、一中のほうの小規模校となっておりまして、今後、協議を進めるものです。

次に改修のスケジュールですが、既に議決をいただいているとおり、幸町第四小学校については、平成25年4月に幸町第一小学校に統合となります。

その後、今回、議決をいただきますと、平成26年4月に幸町第二小学校が一小に統合となり、一小の校舎を、仮校舎として使用します。

その間、四小の改修工事を進め、最終的には平成27年度に四小に移転となります。

内山委員長 統合問題は大変しんどい作業だと思いますが、頑張って進めていただき、ありがとうございました。

子どもたちができるだけ元気に学校に通えるよう、引き続きよろしくをお願いします。

議案第37号 平成24年度千葉市教育功労者表彰について

委員長 総務課長、説明をお願いします。

総務課長 「平成24年度千葉市教育功労者表彰について」、説明します。

表彰候補者は、千葉市教育功労者表彰規則及び千葉市教育功労者の表彰基準細則に則り、関係各部より推薦された方々及び団体について、教育功労者表彰審査委員会において審査されています。

今年度の推薦に当たり、表彰基準が一部変更となっていますので、説明します。

千葉市教育功労者の表彰基準細則の主な改正点ですが、これまで表彰対象に「社会体育の振興、発展に功績のあったもの」とありましたが、本年4月1日付けの組織改正により、スポーツ行政が市長部局へ移管されたことに伴い、これを「社会教育の振興、発展に功績のあったもの」に含めることとし、あわせて所要の文言の改正を行いました。

また、受賞要件について、「社会体育関係団体の会長職経験10年以上」とあったものを、「スポーツ関係団体の役員職経験10年以上」と緩和したことにより、より広く表彰対象者を募ることとしました。

それでは、今年度の表彰者の内訳を説明します。

学校保健関係は14名で、内訳は、学校医6名、学校歯科医5名、学校薬剤師3名です。

次に、生涯学習関係は7名で、内訳は、健全育成関係1名、生涯学習関係1名、スポーツ関係3名、文化芸術関係2名となっております。

続きまして、学校教育関係は45名で、内訳は、校長44名、事務長1名です。

合計で、個人が66名、団体は、生涯学習関係として文化芸術関係が1団体、小学校が5校、中学校が2校の計8団体です。

各表彰者の推薦理由等については、参考資料をご覧ください。

なお、表彰式ですが、11月12日（月）午前10時半から、オークラ千葉ホテルでの開催を予定しておりますので、ご出席のほど、よろしくお願いします。

表彰式の詳細については、後日、改めてお知らせします。

委員長 長年にわたって努力された結果だと思います。

8 その他

- (1) 県教育委員会で実施している「お兄さんとお姉さんと学ぼう」事業について、篠原委員より質問があった。

篠原委員 千葉県の教育委員会で、地域の県立高校の子どもたちが、近隣の小学校へ伺って交流を深める事業を行っているというのを聞いたことがありますが、千葉市立の高校でも同様の事業を行っているのでしょうか。

指導課主幹 高等学校の生徒の交流ですが、千葉県教育委員会で「お兄さんとお姉さんと学ぼう」という事業を実施しています。

千葉市内の県立高校では千葉女子高等学校が近隣の小学校に訪問し、生徒がボランティアで学習支援などを行っています。

千葉市立の高校は、そちらには参加しておりません。

- (2) 普通教室におけるインターネットの活用状況について、篠原委員より質問があった。

篠原委員 先日、全国学力学習状況調査の結果を報告していただきました。

この中で、普通教室でのインターネット活用について、82%ぐらいが行っていないという回答でしたが、千葉市はどのような状況なのか教えてください。

指導課主幹 普通教室でのインターネットの活用ですが、全国学力学習状

況調査中、「普段の授業では本やインターネットを使ってグループで調べる活動をよく行っていると思いますか」という質問に対し、全国平均で52.4%が当てはまる、どちらかといえば当てはまるという回答をしています。

普通教室でのインターネットについて、千葉市の場合、教室で1人1台のパソコンを使えるわけではないため、インターネットの利用があまり行われていないものと考えています。

ただし、千葉市の場合、シンクライアントシステム「Cabinet（キャビネット）統合システム」があるので、そちらの学習システムへログインし、大型テレビで教材の内容を映し出すなどにより、インターネットを活用しています。

また、デジタル教材等を活用したパソコン教室を行っていることから、パソコンの利用は多いのではないかと認識しています。

最後に学習システムへの4月から6月までのログイン数ですが、小学校の教員が6万3,156回、中学校の教員が2万1,299回、小学校の児童が7万4,296回、中学校の生徒が7万1,372回となっており、昨年度同期と比べると、学習システムの活用が進んでいると考えています。

(3) 総合的な学習の時間の内容について、篠原委員より質問があった。

篠原委員 同じく全国学力学習状況調査の小学生のアンケートの中で、「総合的な学習の時間の授業で学習したことが、普通の生活や社会に出たときに役立っていると思いますか」という質問に対し、約80%以上の子どもたちが役に立っていると答えていました。

その総合的な学習の時間の内容について、どのようなことが行われているのか教えてください。

指導課主幹 総合的な学習は、探究的、協働的な学習として体験活動等を通じ、他の教科との関連を重視しながら推し進めているものです。

学校の特色を踏まえ、自ら課題を設定し、環境、福祉、地域、情報等の学習を行っています。

具体的には、地域の歴史や特色などを深め、調べる学習や、車いす体験などの福祉の学習、動物公園での飼育体験学習など、自ら課題を設定することで、さまざまな成果を上げていると考えています。

篠原委員 ありがとうございます。とても楽しそうでいいですね。子どもたちも探究できるところがすごくいいと思います。

(4) 平成24年度第33回千葉市教職員教育研究発表会への参加について、篠原委員、

中野委員及び内山委員長より報告があった。

篠原委員 8月30日、教職員による教育研究発表会へ参加させていただきました。

本当に先生方も、子どもたちがどうしたら課題に取り組みやすくなるかということをととてもよく考えており、大変勉強になりました。

先生方の導き方がうまく、子どもたちの目が輝いている姿が発表を聞きながらとても感じることができました。子どもたちは本当にいい先生にめぐり合っているなと思いました。

中野委員 8月30日の研究発表会に私も参加させていただきました。

その際、土気南小学校の発表について、他でも活用することができるのではないかという意見がありましたが、やはり研究というのは、本来はそういうものではないかと思います。

目的があって、それをどうしたら解決するか、いろいろと組み立ててやっていくと思いますが、その結果がそこでしかできないものより、やはり他の学校でも活用できるものがないのではないかと思います。

どうしても研究のための研究のようなものも出てきてしまうので、他でも活用できるという意見が出てくるような発表が増えてくると、実際に活用されていっていいのではないかと思います。

内山委員長 私も8月30日の研究発表会、大変楽しみにしておりまして、感心しました。

小学校だけだったのが残念ですが、研究の目的と、目標の設定、それから研究の方法、実践の内容、成果、課題等、非常にうまく整理して粘り強く進めたということについて大変評価したいと思います。

やはり、各教員が問題意識を持って目標設定をするところから始まると思います。各自の力量に応じて、どのように解決していくかということについては、また期待したいと思います。どうもありがとうございました。

また、実践記録の部の発表ですが、大変楽しい内容でした。枕草子を主体にして、交流を中心とした書くことの授業づくりですか、内容が大変新鮮で、おもしろいと思いました。

子どもたちをまず小さいグループにまとめて、お互いに意見を交換し合いながら、なかなかうまく書けない子どもたちも随筆

を書くということについて、一生懸命取り組んだ成果として立派なものだと思いました。ありがとうございました。

(5) 千葉市未来の科学者育成プログラムへの参加について、篠原委員より報告があった。

篠原委員 9月8日に科学者育成プログラムの「野生生物を研究する－ニホンカモシカを追って36年－」に参加しましたが、会場となった県立中央博物館の企画展「シカとカモシカ」についてなど、お話がとても面白く、講師の落合啓二先生の、高崎山のサルの本を読んだのが野生動物に興味を持ったきっかけであるというお話がとても興味深い内容でした。

また、参加した子どもたちに、朝永振一郎先生の「不思議だと思ふこと、これが科学の芽です。よく観察して確かめ、そして考えること、これが科学の茎です。そして最後に謎が解ける、これが科学の花です。」という言葉を贈っていましたが、それを聞きながら、参加者の中に本当に未来の科学者がいるのではないかと期待をすることができました。

(6) 第55回千葉市小・中・特別支援学校児童生徒作品総合展覧会【科学部門】への参加について、篠原委員及び内山委員長より報告があった。

篠原委員 9月15日～17日に開催された、子どもたちの夏休みの自由研究総合展に参加させていただきました。

私は初日に行きましたが、本当にたくさんの親御さんたちがいらして会場がとても混み合っており、もう少し会場が広ければゆったりと見られるのではないかと思います。

また、動き回る作品があったのですが、できれば動いている状態のものを見たいと思いました。できればそれを録画して映像で流していただくようなことができれば、子どもたちにとって、来年以降につながるいい手助けができるのではないかと思います。

ありがとうございました。

内山委員長 私も総合展覧会に参加させていただきました。

小学生の部で、ダンゴムシに迷路を解かせようというものがありました。これは素晴らしい発想だと思います。

答えを言ってしまうと、左右交互に動くのだそうですが、とても素晴らしい発見だと思います。びっくりしました。

その他も言えばきりがありませんが、中学生の部は、どちらかというとアイディア勝負で、作品数が少なかったと思います。もう少し大勢の参加が欲しいと思いました。

ありがとうございました。

(7)平成24年度第1回教育委員研修会（県教育委員会・県市町村教育委員会連絡協議会共催）について、中野委員及び内山委員長より報告があった。

中野委員 9月5日に開催された教育委員研修会に参加しました。全体会に関しては、大きな都市と、学校が3校しかないというような教育委員会が、一緒になって話をするのはちょっと無理があるかなと思いました。

また、分科会では、安全対策についてのテーマに参加しましたが、いろいろ学校で様々な試みが行われており、それぞれ、素晴らしいと思いました。

ある教育委員会では、子ども110番という表示がそれぞれの家に張ってあり、危険があればそこへ行くということになっているのですが、その更新が行われていないため、高齢者のみの世帯などが今では空家になっており、かえって危険なため、きちんと更新する方向にした方が良いという提案がありました。

また、最後に県の教育委員から、安全対策はいろいろな方法があるが、やはり最終的には、自分の安全は自分で守るという自覚を持たせるのが大事なのではないかというお話があり、非常に印象的でした。

いろいろな学校でその地区に合った様々な取り組みがされていますが、確かに子ども自身が自覚を持つことが大事なのではないかと思いました。

内山委員長 私も9月5日に開催された研修会に参加しましたので、報告させていただきます。

私は、道徳性を高める教育についてというテーマの分科会に参加し、県の取り組みについて伺いました。

事例発表では、浦安市の中学校の道徳教育が独特な取り組みをしているように感じました。教育重点課題を3つ挙げ、そのうちの一つ、小集団活動を生かして道徳性を高める道徳教育の実践について、道徳の時間をきちんと取り、年間を通して重点的に活動しているという説明を聞きました。

実際には、道徳教育推進部というものを作り、道徳の時間のほか、学級活動や生徒会活動などで全体として道徳問題に取り組もうという姿勢がありました。

中でも感激したのは、まず4月の新入生歓迎会で、いじめゼロ宣言をキャンペーンとして取り組むことを宣言し、10月後半か

ら11月前半にかけ、全学生生命尊重授業展開ということをも道徳の時間に一斉に設けるということでした。

それから、11月前半から12月にかけて実際にキャンペーンを実施し、具体的には、いじめゼロ宣言の掲示物作成及び展示、イエローリボンキャンペーンと題してイエローリボンの作成及び配付を行ったほか、さらには、いじめゼロ宣言の署名活動を行い、生徒の9割の署名を集めるほか、市長、市議会議員、教育委員、地域の自治会等、全てが署名活動に参加し、それを掲示するというような一大キャンペーンをやっているそうです。

このように、年間を通してきちんと取り組もうという姿勢が非常に感じられ、とても素晴らしいと思いました。

そしてその結果として、いじめアンケートを毎月2回実施しており、平成22年4月～12月には平均9.6件あったものが、平成23年は5.8件に減ったそうです。

また、イエローリボンキャンペーン実施後の1月～3月のアンケート結果は、平成22年が1.5件に減少したものの、平成23年は3.4件ということで、減り方が少なかったそうです。

このように、具体的な成果をつかむのはなかなか難しいことですが、一生懸命取り組むことの重要性を感じました。

いずれにしても、保護者の方も含めて、一緒に取り組んでいこうという姿勢がとても強く感じられたので、千葉市も参考にしてみられればと思います。

(8)いじめ問題に対する千葉市教育委員会の取組み等について、学校教育部長より報告があった。

学校教育部長 今回、大津市のいじめの事件を受け、文部科学大臣の緊急アピールが7月13日に出され、各学校に通知したところです。

その後、8月1日に、「いじめの問題に関する児童・生徒の実態把握並びに教育委員会及び学校の取組状況に係る緊急調査」が文部科学省より依頼されたところです。

また、先般、文部科学省による平成23年度の「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査結果」が9月11日に公表されました。

本市の状況としては、平成23年度のいじめ認知件数は、小学校337件、中学校306件の合計643件です。前年度より小学校で43件増加、中学校では155件減少しております。

また、不登校については、小学校166人、中学校599人、

合計 765 人です。これも、昨年度より小学校で 17 人増加、中学校では 54 人減少しています。

次に、このいじめに関し、平成 25 年度文部科学省の概算要求では、いじめ対策関連事業として 73 億円の予算要求がされたところです。

その内容は、いじめの未然防止に向けて、道徳教育推進の充実、対話・創作・表現活動による思考力・人間関係形成能力の充実、健全育成のための体験活動の充実となっています。

また、早期発見・早期対応に向けては、スクールカウンセラーの配置の拡充、生徒指導推進協力員・学校相談員の配置、スクールソーシャルワーカーの配置となっています。

教育職員の研修の充実にあたっては、教職員定数の改善、教職員研修の充実、さらには、第三者的な立場からの調整、解決をする取り組み、外部専門家を活用した学校支援の取り組みが 200 地域に指定されるという状況です。

本市の学校では、これまで、教育相談の充実に努め、児童生徒と教師の共感的人間関係の構築や児童生徒間の好ましい人間関係づくりに取り組んでいます。

さらに、保護者や地域の方などからの相談にも誠意を持って対応するとともに、学校・家庭・地域と教育委員会が一体となり連携を強化し、いじめを許さない学校づくりに努めてまいりました。

また、個々の行為がいじめに当たるか否かについては、表面的、形式的に判断することなく、いじめられている児童生徒の立場に立った指導を通して、早期発見、早期解消に努めてまいりました。

そうした中、今回の国の概算要求事業に関し、本市では全中学校と統合校へのスクールカウンセラーを配置していましたが、今後は、小学校へのスクールカウンセラーの配置や教育委員会へのソーシャルワーカーの配置の検討を進めるとともに、教職員定数の改善では、35 人学級の拡大に向け本市の実情に応じて取り組む考えでございます。

次に、8 月 1 日に文部科学大臣より発出されました「いじめ問題に関する児童・生徒の実態把握並びに教育委員会及び学校の取組状況に関する緊急調査」については、全ての小・中・高・特別支援学校にて実施し、現在、取りまとめているところです。

なお、最後になりますが、現在、議会でのいじめに関する質疑等については、代表質疑で 4 会派からいただいたほか、一般質問

においても同じように４会派からの質問を受け、いじめの定義、いじめの早期発見・早期対応に関すること、また学校での取り組み状況、教育委員会の考えやその指導方針についてお示しをしたところでございます。

篠原委員 小学校へのスクールカウンセラーの配置と、教育委員会へのソーシャルワーカーの配置に関するお話がありましたが、具体的にはどのような対応を考えているのでしょうか。

学校教育部長 現在、全ての中学校及び統合小学校にはスクールカウンセラーを配置していますが、小学校においていじめや不登校が増加していることから、国のいじめ関連事業が実現された際には、小学校にもスクールカウンセラーを配置したいと考えております。

また、教育委員会へのソーシャルワーカーの配置ですが、現在、家庭をはじめ、様々な状況が複雑になってきています。教育委員会といっても、広く指導課に配置するのか、例えば相談しやすいライトポートなどに配置するのかはまだ決定していませんが、いずれにしても、誰もが相談しやすいような体制を整えることが重要であると考えた上で、取り組んでいるところです。

篠原委員 大津市のいじめ事件以降、電話相談などが増えているというようなことはありますか。

学校教育部長 新聞発表のあった７月で比較すると、去年の相談件数は１件でしたが、今年は１０件程度と、やはり増加しています。

内山委員長 教員の皆さんも大変だと思いますが、粘り強く対応してもらいたいと思います。

志村教育長 何とか国の予算を通してもらい、国の応援を得て、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの増員を実現したいと思っています。

市の単独予算でやるには限界があるので、やはり国全体の施策として何とか取り上げていただければと思っていますが、頑張りますので応援をお願いします。

(9) 次回第９回定例会は、事務局において日程を調整の上、開催日時を決定することとした。

９ 閉会

内山委員長より閉会を宣言